



### 20歳の自分へ宛てた手紙

この日は、卒業式当時書いた「20歳の自分に宛てた手紙」が本人に手渡され、開封されました。

手紙には、震災当時の気持ちや将来への希望がつづられていました。

20歳の自分へ宛てた大切な手紙の一部をご紹介します。

「放射能が消えていたら、家と牧場をつくってほのぼのと暮らすんだぞ」

「がんばって、大丈夫だから絶対にあきらめないで。いくじなしにはならないで」



実行委員会の皆さん



学生時代の恩師も駆けつけました



俳優 伊勢谷 友介さん

「震災という大きな経験をした新成人の皆さんだからこそ、社会に出ても自信をもって成長し続けて欲しいと願っています」



出張Barも登場！

### 自分の世界を広げて「20歳の20冊」

村では、一般財団法人出版文化産業振興財団（JPIC）から読書環境に関する支援をいただいています。

その活動のひとつが「20歳の20冊」です。今年も著名人と教育長らが選んだ20冊から、新成人が好きな本を選び、プレゼントされました。

新成人より

「本を読むことで気になることや、問題を知ることによって踏み出す機会になりました。大切に読んでいきたいです」



教育長からひとり1冊、本が贈られました

震災時、小学6年生が20歳

## おおきな支援を力に、恩返しのできる大人になりたい

今年の新成人は、震災当時小学6年生。3月に予定されていた卒業式は、9か月後の12月25日に川俣町で開かれました。成人式には、卒業式の開催を支援した俳優の伊勢谷友介さんが参加。伊勢谷さんが代表を務めるリバーズプロジェクトが、クラウドファンディングで資金を集め、今回も式を盛り上げました。「自分たちが主役になって成人式を作りたい」と新成人も実行委員として参加。卒業式で受けた「支援」を力に、たくましく成長した若者の姿が見られました。



震災の年、9か月遅れで開かれた卒業式の様子



実行委員長・大河内渚さん(左)と伊勢谷さん



心に寄り添う歌を  
岡本真夜さん ライブ



卒業式で歌のプレゼントを届けてくれた歌手の岡本真夜さんが、サブライズゲストで登場。あの日と変わらない優しい歌声が会場と心を包み込みました。岡本さんは、卒業式当日のようすを振り返りながら全5曲を披露しました。卒業式でも歌われた代表曲「TOMORROW」では、会場がひとつになり大きな盛り上がりを見せました。岡本さんは「歌を通して、未来、夢に向かう途中のいろいろな想いに寄り添っていききたい」とエールを送りました。